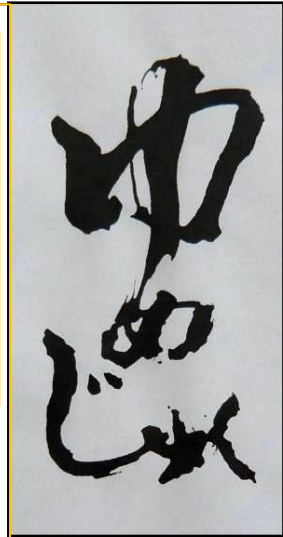


長年の願いでありました女子トイレの増設などを含む「瀬戸会館改修工事」が、いよいよ始まりました。近隣の住民の皆様には騒音や土ほこりなどでご迷惑をおかけしておりますが、ご理解とご協力をいただきながら、予定通りに工事は進んでおります。現在は女子トイレの工事とともに屋上防水作業を行っております。長年の使用により各所で雨漏りがありましたが、これで安心していろいろな活動に利用していただけるものと思います。



改修工事進んでいます



他にも色々な工事が進んでおり、間もなく二階のベランダ補修や一階男子トイレの改修工事が始まります。会館利用の皆様にはご迷惑をおかけいたしますがご協力のほどよろしくお願いいたします。

また、毎年、地域の皆様や会館利用の皆様で行っております年末の大掃除は、会館工事中ということもあり、今年は**年末の大掃除は中止します。**

瀬戸会館だより
平成24年12月号
新居浜市瀬戸会館
〒792-0821
新居浜市瀬戸町7-30
E-mail
seto@city.niihama.
ehime.jp
TEL 0897
41-5859
(FAX 兼用)

サークル紹介「新居浜モダンダンス研究会 (NMD)」

「こんにちはー！」の明るい声を弾ませて、毎週水曜日10時前からメンバーが集まってきます。通称「NMD」と呼ばれるこのサークルは、活動を始めて30年を経過しました。多いときには30名ほどの会員がいましたが、職場や学校、ご家族の事情などで会員も減り現在は10名で活動しています。「モダンダンス」は、自分たちで考えたダンスを通して、見てくれる人に自分たちの表現したい“思い”を伝えるものです。互いの気持ちを通い合わせて、どのような表現(ダンス)にしたらいかがいかわるか、音楽に合わせて何通りもの振り付けを考えながら、ひとまとまりのダンスに仕上げていきます。そこには「一人ひとりの表現技能」と「心を合わせた絶対的なチームワーク」が必要となります。



瀬戸会館の二階の大きな鏡がある大会議室が練習場になっています。廊下や階段での行き帰り、時折、にぎやかに聞こえてくるのは、凛とした姿勢で堂々と踊るステージの印象とは全く別の、日常の生活がにじみ出た“おばちゃん会話”です。館内に響くほどの新居浜弁で明るく盛り上がっている談笑の声に、つい私たちも頬がゆるみます。チームプレイが培った人間関係の確かさが垣間見える思いがいたします。

また、以前、ここで活動し巣立った若い会員が、近い将来、またメンバーに加わり新しい風を吹き込んでくれるようにも聞いております。いつまでも若々しく躍動感あふれる「NMD」であり続けてほしいと願っています。

12月公演
回転木馬
おはなし会
5日予定
10:30~11:00
瀬戸児童館

今年もにぎやか “泉川公民館まつり”

11月18日(日)は「泉川公民館まつり」。遠く南の山には少し雲がかかっているものの、頭上では青空が広がる上天気。公民館の門を入ると威勢のいい掛け声に合わせた餅つきの音。ざっと見渡して20張りを超えるテントの数。テントの中は売店だったり、食堂だったり、おなじみの綿菓子を作るおじさんの呼び込みの声も聞こえる。長い長い行列の先をたどると、赤飯とつきたての餅がならんでいる。

館内のロビーでは、血圧と体脂肪の測定が行われ、測定器具の前の椅子は次々と埋まる。パッチワークのコーナーでは、木岡シゲ子さん、ひょうたん展示の部屋では沼田浩夫さんほかたくさんの方の作品が並び、囲碁コーナーには石井和夫さんら三人が盤をにらんでいて、瀬戸会館で活動する人の姿をここでも拝見できるのがうれしい。

特設ステージでは、ハーモニカや大正琴のグループの演奏、日本のお手玉の会泉川支部のメンバーによる演舞、子育て支援サークル「ほっこり」が可愛い子どもたちと一緒に踊ると、会場から拍手が湧きあがる。このサークルは忙しいお母さんに「ほっこり」(ゆっくり)してもらうために活動しているのだとか。



また、地元で活動する「劇団 はじめました。」が、ゆうれいが登場する二人の演技で『コント1313』を上演、観客をひきつける。授業を終えたのか、昼前になるとランドセル姿がドッとふえて、よりにぎやかになった。



人権あらかると

女性であるがゆえの差別(1)

臼井敏男

部落解放同盟愛知県連合会の書記次長の山崎鈴子(60)も被差別部落出身ではない。東京で生まれた。都立北園高校で部落問題研究会の展示を見て、「日本にこんな差別があるのか」と驚いた。研究会に入ると、網野善彦が顧問だった。「日本史は支配者の歴史ではない。民衆がいる」と教えられた。96年、名古屋市の日本福祉大学に進んだ。部落問題研究会に入ったり、一人で部落に通ったりした。偶然、名古屋駅で網野に出会った。網野は名古屋大学文学部で助教授になっていた。

山崎は73年に大学を卒業し、会社に勤めた。部落のアパートがあいたと聞いて、移り住んだ。周りは皮革の職人の町だった。金槌を叩く音がいつも聞こえていた。まもなく部落のなかにある保育所と母子寮で働いた。76年、愛知県連に就職する。住まいはずっと同じ部落である。

「部落は人の温かさがあり、居心地がいい。30歳と40歳で二回、大病をしたんです。どちらも入院中は近所の人たちが毎日、洗濯ものを取りに来てくれました。退院して自宅で療養していると、食事から身の回りの世話をすべてやってくれました。いずれも仕事に復帰するまで3カ月ぐらいかかりました」

山崎はしだいに部落のなかの女性差別に目が向いた。

臼井敏男『部落差別を越えて』(朝日新書)より

臼井敏男 慶應義塾大学非常勤講師

東予地区人権・同和教育研究協議会開く

平成24年度の標記の会が11月6日(火)今治市で開催された。

社会教育部会では新居浜市から2つの実践報告があった。大生院公民館主事の曾我部美由紀さんは「お茶の間人権教育懇談会の広がりを目指して」と題して、公民館で活動するサークルや老人クラブへ「お茶懇」を呼びかけてきた様子を、市役所の職員越智美保さんは「被災地における救援活動を通じて感じたこと」のテーマで、陸前高田市で活動した1カ月の体験から学んだことを語った。

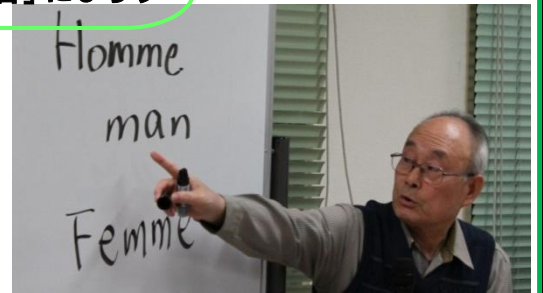
学校教育部会では菊間の保育所、小学校、中学校がそれぞれ保育・授業を参加者に公開した。高等学校教育分科会は今治西高校が会場。2年5組のホームルーム活動では、「人権を獲得してきたあゆみに学ぼう(3)」という主題で、水平社宣言を題材として授業。授業後の研究協議では「将来、部落問題にであったとき、どう行動すべきかがわかる社会人に」、「自分の問題としてとらえる人間に育てる必要がある」などの意見が交わされた。

実践報告では新居浜南高校の永易孝規さんが「地域・関係機関との連携を生かした人権・同和教育の取組」をテーマに報告。会場からはハートフル新居浜に関する質問が多く寄せられ、人権啓発の在り方について参加者の関心が高いことがうかがえた。

また、今治西高校の螢雪資料館には高校生による「人権作品展」が開かれており、心に残る作品が多かった。

「人権のつどい日」にひろう

11月は、「今、人権について考える」と題して、瀬戸会館の香出指導員が講師となり講演を行いました。



国の内外を問わず、いまだに続く著名人や行政機関、そしてマスコミ等々での人権を軽視した発言や対応、差別事象について紹介し、人権感覚の欠如がもたらす重大な人権侵害について考える機会となりました。

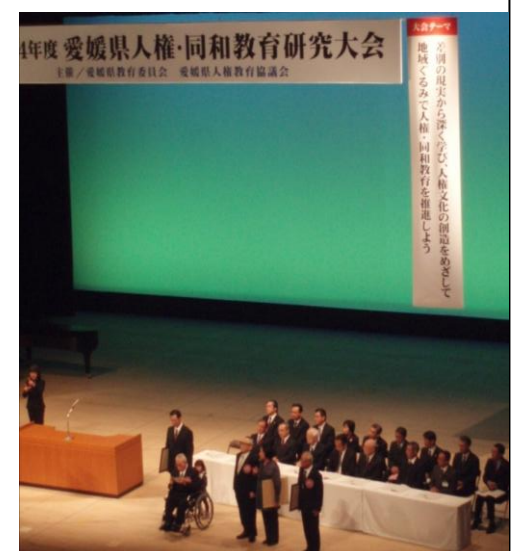
ハンセン病回復者の桜井哲夫氏が、病の治療のために療養所に行くその朝、「たとえ口が裂けるともこのことだけは決して言うな」と顔をゆがめて言った父の言葉。当時の差別の厳しさと苦しい思いをうたった「桜井哲夫詩集」からの詩を紹介することから講演は始まりました。次々に紹介される差別事象。それぞれの事象の裏に潜む苦しめられた人々の思いに人権尊重への啓発の大切さを改めて心に刻む時間となりました。

愛媛県人権・同和教育研究大会開く

11月14日(水)平成24年度の標記の会が松山市道後の「ひめぎんホール」で開かれた。今回は〈水平社創立90周年記念大会〉と銘打つての大会で、全体会でも伊予市の中尾治司さんが「水平社創立90周年～地域で受け継ぐ先人の願い～」と題して特別報告をした。

午後からの社会教育部会Aでは、四国中央市の原田浩一さんが川之江隣保館で毎月11日を「人権の日学習会」として人権啓発に取り組むようすを、松山市の今井元子さんは、差別のない社会に向けて人材を育成するための「人権啓発推進員養成講座」のようすなどを報告した。新居浜市からも松山明子さんが「やさしさいっぱい・楽しさいっぱい・笑顔がいっぱい」と題して、これまで取り組んできた障がい児の発達支援・家族支援などについて報告した。

また、全体会の開会行事のなかで3人が人権同和教育推進功労知事表彰を受けた。西条市出身の本田久夫さんと松本常二さんは国立療養所大島青松園入所者として、ハンセン病に対する偏見や差別を解消するために尽力したとして、四国中央市の久門蕃さんは地域の人権・同和教育の推進に長年尽力したとして表彰され、会場からは大きな拍手が贈られた。



12月の主な行事予定

5日・12日(水) — 移動図書館

11日(火) — 人権のつどい日

DVD「人の値打ちを問う」

一人権の詩人・江口いと一 視聴と話し合い

12月1日(土)・2日(日) 第64回全国人権・同和教育研究大会 於・倉敷市

5日(水) 新居浜市高等学校人権・同和教育研究大会 於・市民文化センター